

奈良先端科学技術大学院大学英語版ウェブサイト 基本コンセプト及び制作概要

【基本コンセプト】

従来の日本語サイトからのミラー型ではなく、英語の独立したサイトとし、海外へ向けての情報発信と留学生獲得を主な目的とする。ユーザーには、留学希望者・海外の研究者・海外のプレスなどを想定し、実際に利用するユーザーのニーズにあい、彼らが本学に魅力を感じるようなサイトを作成する。

【制作概要】

1. サイトの構成と構成

- 基本コンセプトに沿ったサイト全体の構成について提案すること。
- 文化や習慣の違いを認識した上で、ユーザビリティの高いサイト構成にすること。
- コンテンツ全体の構成・階層を見直し、ユーザビリティを高めると共に、ユーザーにとって優先度・必要度の高いコンテンツを適切に配置すること。
- メニューにすべき項目（現在の訪問者別メニュー、ローカルメニュー、特別メニュー、グローバルメニューなど）を再考すること。
- ユーザーの立場に立って、情報の内容・構成を抜本的に見直し、情報が整理された見やすいサイトとすること。
- 新規ユーザーを本学ウェブサイトを集める「集客力」を高めること。具体的には、サイト検索にかかりやすい工夫をするなど。
- 全体構成がわかる階層図（案）を提示すること。

2. ページの詳細

<トップページ>

- 特にトップページについては、最先端の研究を行っている大学院大学である奈良先端大を象徴するようなインパクトのあるデザインとすること。
- トップページのコンテンツは、そもそもトップページに置くべきものかどうか吟味し、メニューボタンの配置、プルダウンメニューの順番等についても、ユーザーに見てもらいたいもの、ユーザーのニーズの高いもの、アクセスの多いものを上に置くなど、工夫を凝らすこと。

<全ページ>

- 掲載英文については、ウェブサイトのコンテンツにふさわしい文章であるか確認し、必要に応じて書き直すこと。
- ページのデザインは、見やすさ・分かりやすさを重視すること。
- ページのサイズは、横幅を増加させるなどし、スクロールダウンする必要を可能な限りなくすこと。
- 表のみ、箇条書きのみ、といったページを無くし、読者の興味を引くようなリード的な文章とイラスト・写真等の画像を組み合わせるなどし、視覚的にも読み進める意欲を煽るレイアウトとする。
- 掲載データ（図・表・イラスト）については、統一感を持ち、ビジュアル的に魅力的なものとし、ユーザーが求める、又は、本学がアピールしたい内容に合致するように抜本的に見直すこと。
- フォント・配置位置・画像の工夫などにより、各ページへの入り口の視認性を高めること。
- 各ページにトップページへ戻るボタンを必ず置くこと。

3. サイト立ち上げ後の情報の更新・追加
 - 基本的には外注せずに学内で行える作りとし、学内の担当者用のマニュアル（サイトの構成表など）を作成しサイト完成時に提出すること。
 - 上記で行えない範囲のアフターケアについても、その方法を見込み費用と共に具体的に提案すること。
4. ネイティブ取材による英文ライティング
 - コンテンツの一部をネイティブの取材による英文ライティングで作成すること。
 - ライティング担当者は英語ネイティブで、理系のサイトを作成出来るバックグラウンドと、大学院大学にふさわしいサイトを作成できる英語力を有すること。
 - 英文ライティングの為の取材の進め方に関する具体的な案を提示すること。
 - ライティング担当予定者が過去に作成した制作物があれば見本として提出すること。
 - 上記のライティング担当予定者のプロフィールを提出すること。
5. 写真の撮影
 - サイトに使用する写真は、プロによる写真撮影を行うこと。
 - 具体的にどのような写真がどのようなイメージ作りに効果的かを提案した上で、目的に沿った撮影を行う。具体的には、生き生きとした表情のわかる人物写真を使い学生生活の充実ぶりをアピールするなど。
 - 撮影の為のスタッフを有するか、または手配できること。
6. 不足しているコンテンツの提案と作成
 - 地域での生活に関する情報のページを設けること。
 - 留学生を対象にしたページを設け、費用・奨学金等の情報を盛り込むこと。
 - 大学ランキング・統計等のユーザーに大学の高い評価を印象付ける為のページを設けること。
7. その他
 - 想定されるメインユーザーである英語ノンネイティブのアジア諸国の読者にも配慮したサイトとし、特に研究内容以外では、不必要な難解な英語の使用を避け、標準的で明快な英語を使用すること。
 - スタンフォード大学、マサチューセッツ工科大学などの海外トップ校のサイトを参照し、最新の構成とすること。
 - 昨今、日本の大企業でも、日本語サイトに対するミラー型の英語サイトではなく、独立した「Global」サイトが置かれているケースが多く見られる。これらに付いても、内容・構成を参考にすること。
 - 国内向サイトとの性質の違いをとらえ、サイト作成に活かすこと。
 - 既存のページから再利用できるコンテンツを選択・使用すること。
 - 納入予定日は平成 22 年 10 月 1 日とする。
 - Web に使用する写真・表・イラスト等を含む全ての著作権は、大学に帰属する。

以上

参考資料

(海外の大学の傾向)

- アメリカ

大半のトップクラスの大学がトップページに動画を使っており世界最先端のイメージ。トップページは大学によって大きく違い個性を感じる。しかしながら、作成にはかなりの費用と時間がかかることが予想される。

スタンフォード大学 <http://www.stanford.edu/>

マサチューセッツ工科大学 <http://web.mit.edu/>

イエール大学 <http://www.yale.edu/>

プリンストン大学 <http://www.harvard.edu/>

ハーバード大学 <http://www.princeton.edu/main/>

- イギリス

アメリカの大学に比べるとオーソドックスで、トップに動画を使っているところはほとんど無いが動画へのリンクは多数はられており、大学をイメージ出来るようなアルバム写真をトップに置くなど工夫が見られる。画面のデザインは、大学らしく見本となる印象。NIASITでも近いものが作成できそうなサイト。

ケンブリッジ大学 <http://www.cam.ac.uk/>

オックスフォード大学 <http://www.ox.ac.uk/>

ロンドン大学 <http://www.lon.ac.uk/>

- 中国

トップページに動画はなく、コンテンツも文字の羅列が多く、洗練された感じはない。

清華大学 <http://www.tsinghua.edu.cn/eng/index.jsp>

北京大学 <http://english.pku.edu.cn/>

- 韓国

アメリカに次ぐ先端的なサイトの印象。動画を使用している大学も有る。

ソウル大学 <http://www.useoul.edu/>

高麗大学 <http://www.korea.edu/>

延世大学 <http://www.yonsei.ac.kr/eng/>

- 日本国内

日本語ページのミラーサイト。トップページに動画はない。私立大学にはいろいろなサイトが有る。

北陸先端科学技術大学院大学 <http://www.jaist.ac.jp/index-e.html>

東京大学（中国語・韓国語サイト有り） http://www.u-tokyo.ac.jp/index_e.html

京都大学（中国語・韓国語サイト有り） <http://www.kyoto-u.ac.jp/en>

大阪大学 <http://www.osaka-u.ac.jp/en/index.html>

早稲田大学 <http://www.waseda.jp/top/index-e.html>